

テーマ

おばけ屋敷プロジェクト

団体名

代官山ファンイン

目的

- ①地域の青少年の社会参加
- ②青少年の夢の実現・輝ける地域の場の創出
- ③地域へのアピール・担い手の発掘
- ④世代間交流協働の機会

団体説明

区内の中高生を中心にした日常的な「子どもの居場所づくり」を目指して活動を行っているグループが、渋谷ファンイン。中学校区を基本に各地区で活動している。「ファンイン」とは、中国語で「歓迎」の意味。その中の一つが「代官山ファンイン」で中学生の居場所づくりとしての活動を行ってきた自主グループ。現在は「おばけ屋敷プロジェクト」を中心に活動をしている。

概要

期間：4月～10月の半年にわたるプロジェクト

内容：「お化け屋敷をつくらない？」というコンセプトで地域の中学生以上の青少年を募り、集まった仲間と作り上げるプロジェクト

参加：主なメンバーは地域の鉢山中学校を中心とした青少年。中高生・大学生等や青年層社会人。地域外の参加もあり3日間で約1000人の来場者

実施場所

地域にある「渋谷区立鉢山中学校」が活動の舞台。会場は重層体育館の地下小体育館（武道場）、その他にも話し合いは会議室としても教室もお借りする。おばけに使う通路や壁用の木材や段ボール、その他の資材・道具等も学校のご理解で倉庫をお借りして収納している。

流れ

- ①仲間を集め、企画をつくる・・・3～5月頃、中心になるメンバーが運営について検討（3会程度のミーティング）
中学生への呼びかけ＝5月下旬
実行委員会（中学生～社会人が全員参加）＝6月～7月に4回程度。
- ②おばけ屋敷をつくる・・・開催日2週末前（土日2回前～）制作活動開始。
- ③おばけ屋敷を公開する・・・公開は3日間、最初の2日間の開催時間帯は17時～21時、3日目は15時～19時
- ④次の活動へ・・・次年度の体制作り、あくまで自主性を重視。

特徴 発展

プロジェクトの特徴

- ①中学校との連携 地域との信頼関係・相互協力。
- ②青少年の参画 任せる×切磋琢磨のバランス
- ③大人とのコラボレーション「お付き合い」から「主体的・積極的参加」。
- ④地域の子どものモデルとなる青少年 子どもたちの縦のつながりと大人とのつながり。
- ⑤長いスパンの活動体験（実体験）地域から認められる事の実感

活動の発展

- ①広がるメンバーの興味・関心 おもしろい・ワクワク感→原動力、自己実現・達成感・存在感。
- ②仲間関係の継続性・日常性＝自分の居場所、創意・工夫、認められる体験次へ続く＝関わり方やアイデアの向上が可能 認められる自己肯定感＝役にたっている実感。地域とつながるきっかけ。
- ③他のことに対しての自信（応用）見守ることの大切さ＝やり遂げる自信。発表力・段取り・他者との関係作り。

これからの課題（今の課題）

- ①資金
- ②後継者の継続＝メンバー間の連絡や意思疎通がうまくない→メンバー数の伸び悩み

事例資料 写真、印刷物等



おばけ屋敷プロジェクト

区内の中高生を中心にした日常的な「子どもの居場所づくり」を目指して活動を行っているグループが、渋谷ファイン

プロジェクト会議

中心メンバーで今年の方針を考え、いざ！実行委員会へ臨む



おばけ屋敷づくり

大人と子どものコラボの姿！大工さんも登場



PR活動

話し合いから始まった街中でのPR活動



食べ物のいい匂い！

大人も活動に参加。みんなで作る、みんな楽しむ！

